

保険の歯科治療に欠かすことのできない金属材料である金銀パラジウム合金（金パラ）の価格高騰が続いている。歯科医療機関の購入価格が保険償還価格を上回る逆ザヤ状態となっており、歯科医療機関の経営と国民の口腔の健康を脅かしている。

保団連では昨年暮れより「金パラ逆ザヤシミュレーター」で調査を行い、逆ザヤの実態を明らかにした。昨年9月時点の実勢価格は59,304円/30g（公示価格43,740円）。10月には消費税が10%になり公示価格が50,250円になったが、実勢価格63,965円で相当な逆ザヤがあった。今年1月初めには69,185円だったが、毎週1,000円ぐらいつ上り、既に7万円は突破したようで、天井知らずの状態である！世界情勢も不安定なところがあり、金の価格も上昇しており投機

的な動きも加速している。逆ザヤも2万円以上に広がり、歯科医院の経営に重くのしかかっている。

今度の4月改定の改定率は0.59%で、歯科の改定財源は180億円程度と言われているが、金パラ

論壇

金パラ実勢価格との乖離が少ない措置を講じるよう、強く求めていきたい！

茨城県保険医協会理事 柴沼 博之

の逆ザヤ額は今のままでは400億を超える見込みである。僅かな改定率の上昇分など吹っ飛ばすような額になっている。4月改定時に金パラの公示価格も上がるだろうが、昨年9月の価格を基準とし補正して決めるとされている。しかし、その過程が

明らかにされておらず、情報開示請求をしても明確な情報が開示されない。このまま上がり続ければ逆ザヤの解消は不可能と思われ、厚労省もまともに考えてくれているとは思えない。

流石にここまで逆ザヤが広がる。と金パラを使用した治療を控えるような話も聞くようになる。本来歯に被せものをするべきところを仮歯で様子を見たり、コンポジットレジンの充填で済ませたり、こうなると技工物も出さなくなり、ただでさえ厳しい

と言われている技工士の仕事も減少し、技工士の経営を圧迫することも予想される。

原油価格が上がった時に航空運賃に燃油サーチャージなどが導入されたが、金パラの価格高騰も何かしらの方法を考え早急に逆ザヤを解消しないと、まともな歯科医療を提供できなくなる恐れもある。代替材料など金パラに依存しないことも必要と考えられる。その他、国家賠償法に基づく損害賠償請求をしてはという意見も出ている。

保団連では49回定期大会で、金パラ「逆ザヤ」の即時解消を強く求める特別決議を表明した。厚労省にも公示価格の決定プロセスを明確にし、改定も±5%の増減ルールの見直しをし、実勢価格との乖離が少ない措置を講じるよう、強く求めていきたい！